

個人技レベル上がる

中信勢 組織プレーに課題

市民タイムス杯少年サッカー新人戦・カガミカップは、6試合で1失点と守備が安定した裾花が第十四回大会以来、二回目の頂点に立った。準優勝の諏訪は、2試合のPK戦を制するなど勝負強さが光った。不振だった中信勢では、連覇は逃したもののセタックが3位に入った。

(肥後健二)

中信勢で8強に残った23チームが初戦敗退といふ寂しい結果だった。個人はボールを動かして攻撃だけでなく、39チームのうち人の能力で目を見張る選手を組み立てる組織的なプレー

手はいたものの、意図的にボールを動かして攻撃し、巧みなボール扱いで数人を抜いたりするプレーは他地区のチームが上だった。来季に向けた宿題としたい。大会を通し、中盤から前線で高い技術を持った選手が見られた。ワンツ

一は年々レベルが上がっている。一方、重心移動の際に踏ん張る脚力などは、以前に比べて力強さが薄れている。

三大会前から小学生規格のピッチになり、今大会も体力や走方に頼る大味な展開は少なかった。

吉田益孝競技委員長は総評で、ドリブルの技術を褒めつつパスの精度の低さを課題に挙げ、「そこを磨けばさらに良くなる」と二層の精進に期待した。

試合結果

▽準々決勝	諏訪 2 (0) 2 (0) 1 (0) 岡谷	岡谷東 3 (0) 0 (1) 鹿代
裾花 2 (2) 0 (0) トップ	セタック 1 (1) 0 (0) 松本	セタック 2 (2) 0 (0) スト
▽準決勝	諏訪 0 (0) 0 (0) 岡谷東	裾花 2 (1) 0 (0) セタック
PK 7-6	裾花 2 (1) 0 (0) セタック	セタック 2 (2) 0 (1) 岡谷東
▽決勝	裾花 3 (2) 0 (0) 諏訪	

元日本代表が子供を指導

○市民タイムス杯少年サッカー新人戦・カガミカップで、8強のチームを対象に、初の技術クリニックがあった。元日本代表でJリーグのサンフレッチェ広島などで活躍した柳本啓成さんらが

元日本代表の柳本さんが指導した技術クリニック

講師を務め、上達へのヒントを投げかけた。

決勝を観戦した柳本さんが指摘したポイント「パスを受ける前に周囲を見ること」。自らのプレーで手本を示し、短時間ながら、個人のレベルアップに欠かせない要素を指導した。柳本さんは「パスの重要性をこの世代で知ることが大切。大人になった時に生きてくる」と話した。



9年ぶり2回目の優勝を飾った裾花



準優勝した諏訪



中信勢最高の3位となったセタック

